

子どもたちの笑顔の「サイン」があふれる環境づくりを

養護教諭 菅原 真由美

秋から冬へと季節の移ろいを感じる頃となりました。朝夕の寒暖差が大きく、空気が乾燥するこの時期は、体調管理の難しさを感じる時期でもあります。先月は南区の小学生がインフルエンザに罹患したと情報があり、「とうとう来たかぁ」と気持ちを引き締めたところです。

本校では、昨年2月から、児童生徒の健康管理と感染症の広がりを防ぐために、登校直後、各学級で全員の検温を行っており、昨シーズンのインフルエンザや水痘など、感染拡大を防ぐことができました。しかし、何よりも嬉しいことは、児童生徒が検温を嫌がらなくなった、登校後の検温を自主的に行うなど、児童生徒に変化がみられたことです。

登校後の検温を始めた当初、じっと待つことが苦手、腋下の過敏がある等の理由で検温が難しい児童生徒や受け身で検温されている児童生徒がみられましたが、今では、スムーズに検温できるようになってきました。スムーズな検温は、体調不良等で医療機関を受診した際も役立ちます。抵抗があるからと諦めず、毎日繰り返し行うことで体得できたことの1つです。

また、児童生徒には、自己管理として、「自分の方法で自分の状態を相手に伝える」ことができるようになってほしいと願っています。

私たちは、児童生徒に「体調どう?」「元気?」などの言葉をかけ、「観る」「触れる」などの五感+第六感を使って、からだと心の状態を把握しようと努めています。私たちからの発信に対する児童生徒の返し。それは、表情やまなざし、発声、動作など、個々の得意な方法で、個々の状態や気持ちを表現してくれています。

児童生徒が発する「サイン」のうち、痛い・不安・気持ち悪いなどの「不快」のサインを私たちが受け取り、嬉しい・楽しい・気持ちよいなどの「快」の環境に整えることが私たちの務めだと思っています。さらに、「快」のサインを私たちが言葉に代えて児童生徒に返すことで、「自分のことをわかってもらえた」と児童生徒自身が感じ、自己肯定感につなげてほしいと願っています。

そのためには、身近にかかわる大人が児童生徒の「サイン」を的確に受け取る必要があります。児童生徒が自己管理できる力をつけ、「わかってもらえた」感をもてるよう、健康に関するヒントをご家庭からいただきたいのです。登校時に「食う、寝る、出す」（栄養・水分、睡眠、排泄）と発作等、ご家庭での様子について、担任等にお知らせください。

子どもたちが学校生活を楽しく過ごすためには、体力的・精神的な余裕が必要です。子どもたちの笑顔、まなざしなどの「サイン」を受け取り、居心地のよい環境を整えたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願いします。